



最終セッション(総括パネルセッション)

持続可能な地球の実現に向けてイノベーションを促進するにはお互いどう協力し合えばよいか？

チェアパーソン：生駒 俊明 科学技術振興機構研究開発戦略センター長

ラポルトゥール：岡山 純子 科学技術振興機構研究開発戦略センターアソシエイトフェロー

ラップアップ・セッションは「科学技術イノベーションを推進するために各国はどのように協力できるか？」というタイトルで行う。最初にそれまでの各セッションで議論された事項を基に、「イノベーション・エコシステムを構成する諸要素」を明らかにして進める。そしてその諸要素の中でエコシステム構築にあたって何を優先させるのが良いかを議論する。そしてパネリストに各国、各地域の強み、弱みなどを話してもらい、それをもとにグローバルの規模でイノベーションを進めるための国・地域間の協力関係のスキームを議論する。パネリストのバックグラウンドは多彩であるから、いろいろな意見が飛び交い、活発で、有意義な議論ができると期待する。聴衆からの意見をできるだけ拾いたい。

「イノベーション」はいろいろな人がいろいろな場面で用い、様々な異なった意味を込めて使われているから、ここで用いる「イノベーション」の用語の定義をしておく。ここでいうイノベーションとは「科学技術イノベーション」であって、「科学的知識を経済的価値あるいは社会的価値（例えば、生活の質の向上）に転換するあらゆる行為」と定義する。したがって経営学で言う「新製品を市場に投入して利益を挙げるプロセス」では狭すぎ、逆に何でも「新しい変化」をイノベーションと呼ぶのは広すぎる。議論のベースになるのは図1に示した「入口」「場」「出口」のスキームである。ここで「入口」は科学的知識の創造や基礎研究の成果であって、「場」はこの知識を経済的・社会的価値に転換するプロセスを提供・支援するための人や組織の相互作用の空間をさし、「出口」はこれらのアイデアや新技術、新製品、新サービスを市場や実社会に投入するパスを言う。パネルでは切り出されたイノベーション・エコシステムの諸要素をこの図に当てはめ、それらの関係を議論する。これをもとに政府、民間セクター、大学、市場、ファンドなどのイノベーションのプレーヤーとステークホルダーが何をすれば、地球規模のイノベーション・エコシステムが構築されるかを明らかにする。さらにグローバルなイノベーション政策というものがあるのか、あるならそれはいかにして実現可能なのかを議論し、その中での各国の役割は何なのかを明確になればこのセッション、ひいては本会議が成功したということになる。